秋田焼山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２、図３-①）

焼山監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、叫沢（さけびさわ）源頭部の噴気の高さは噴気孔上20ｍ以下で経過しました。栂森（つがもり）監視カメラによる観測では、湯沼で弱い噴気が認められました。噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図３-②）

地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図４、図６）

GNSS 連続観測で認められていた 2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）周辺の基線の伸びや縮みの変化は、2025 年夏頃から概ね停滞しており、今期間も鹿角２（国）―岩手松尾（国）の基線長に変化は見られませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50ｍメッシュ（標高）」を使用しています。



図１　秋田焼山　湯沼と叫沢源頭部の状況（10 月 11 日）

・東北地方整備局が設置している焼山監視カメラ（山頂の西約２km）の画像です。
注）監視カメラからは直接見えませんが、黄破線が湯沼の位置を示します。湯沼から噴気が噴出した場合は高さ50m以上のときに観測されます。

叫沢源頭部からの噴気の高さは20m以下で、噴気活動は低調に経過しました。



図２　秋田焼山　湯沼と湯ノ沢上流の状況と地表面温度分布

・左図：栂森監視カメラ（湯沼の東約１km）の可視画像（10 月 12 日）です。
・右図：栂森監視カメラ（湯沼の東約１km）の赤外熱画像（10 月 11 日）です。

湯沼で弱い噴気が認められました。湯沼及び湯ノ沢上流の地熱域に特段の変化は認められませんでした。

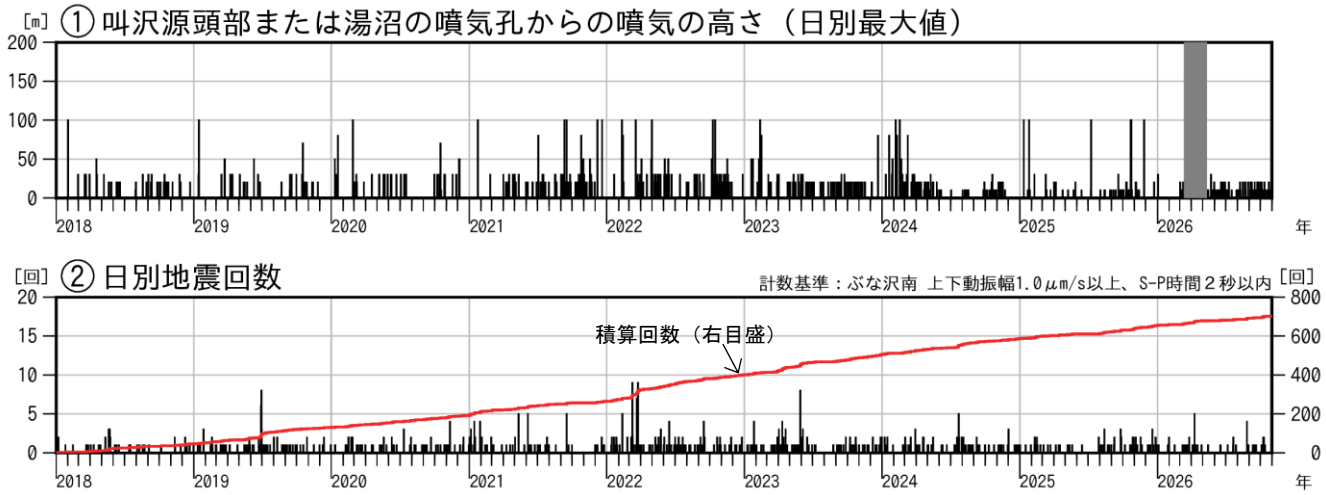


図３　秋田焼山　火山活動経過図（2018 年１月～2026 年 10 月）

・灰色部分は欠測を示しています。

噴気活動と地震活動は低調に経過しました。

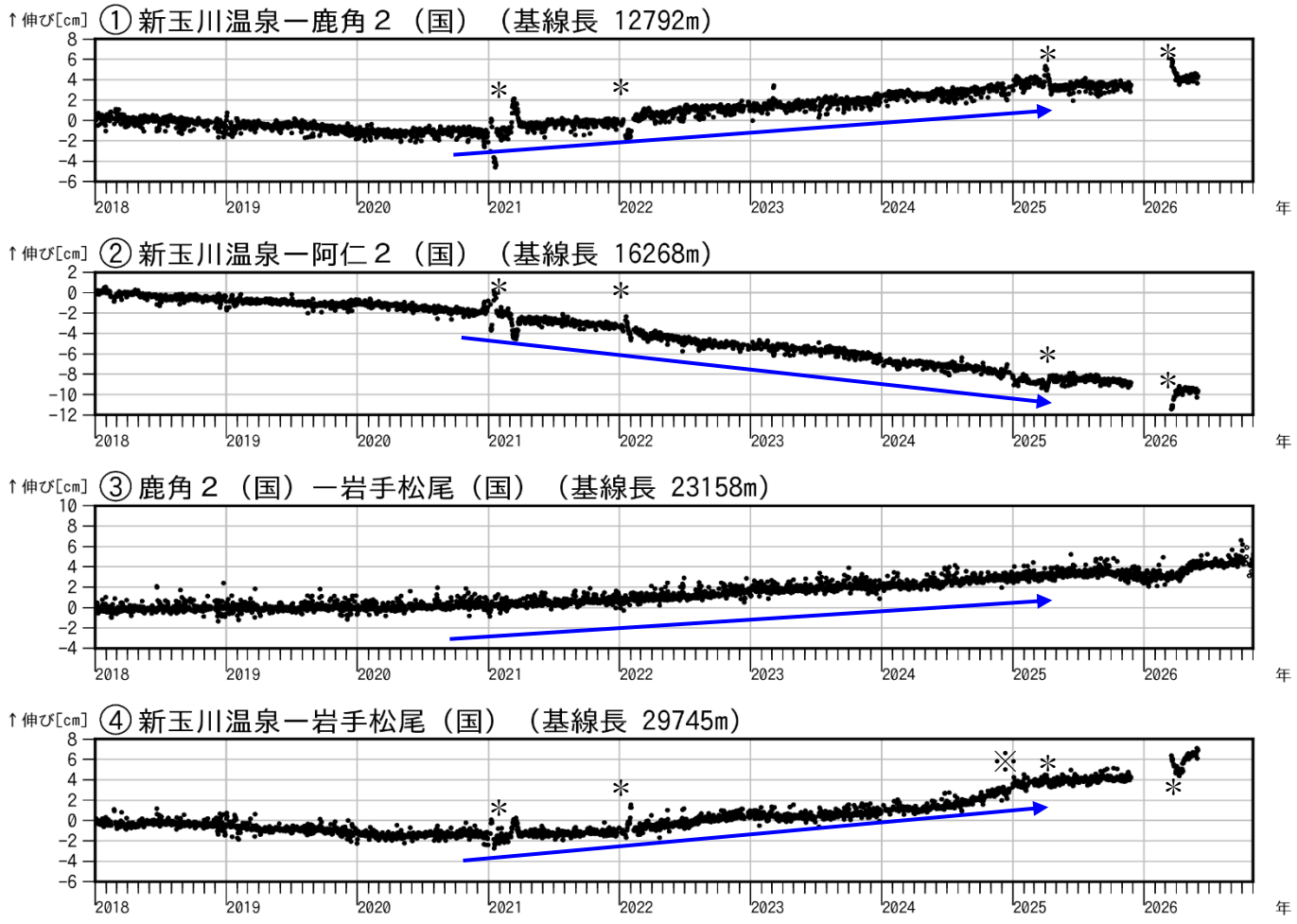


図４　秋田焼山　GNSS 基線長変化図（2018 年１月～2026 年 10 月）

・①～④は図６の GNSS 基線①～④に対応しています。
・空白部分は欠測を表しています。
・（国）は国土地理院の観測点を表します。
・青矢印は 2020 年以降の基線の伸び、または縮みの変化を示します。
・①②及び④の基線について＊で示す変動は、新玉川温泉観測点固有の変動であり、火山活動に起因するものではないと考えられます。
※：岩手山の火山活動に関連する変化と考えられます。

2020 年中頃からの秋田焼山（及び八幡平）周辺の基線の伸びや縮みの変化（矢印）は、2025 年夏頃から概ね停滞しており、今期間も③の基線長に変化は見られませんでした。

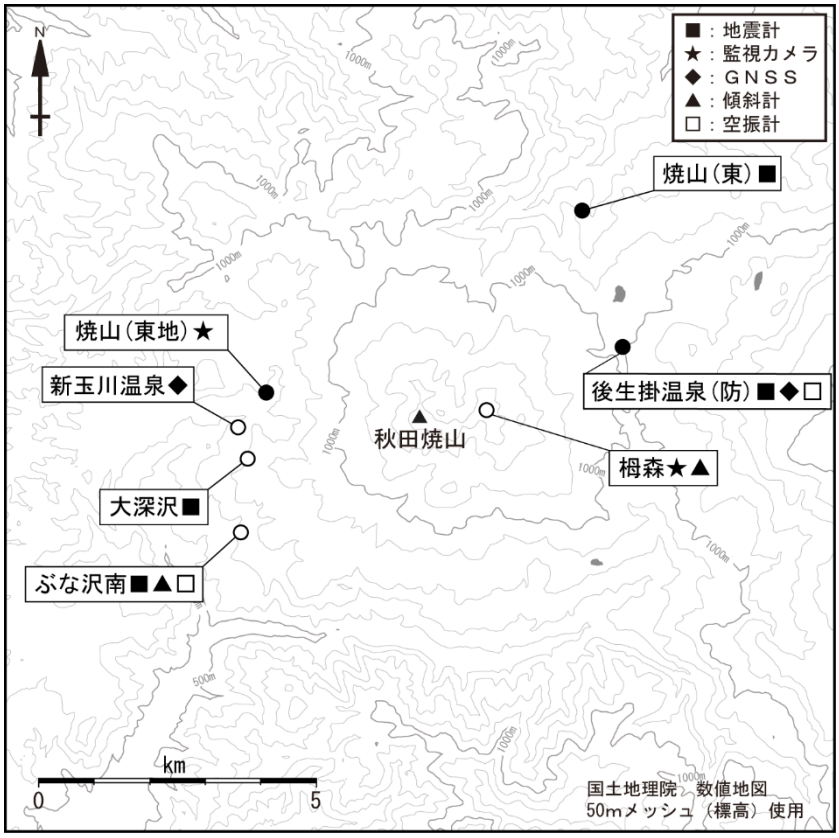


図５　秋田焼山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東地）：東北地方整備局　（東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所

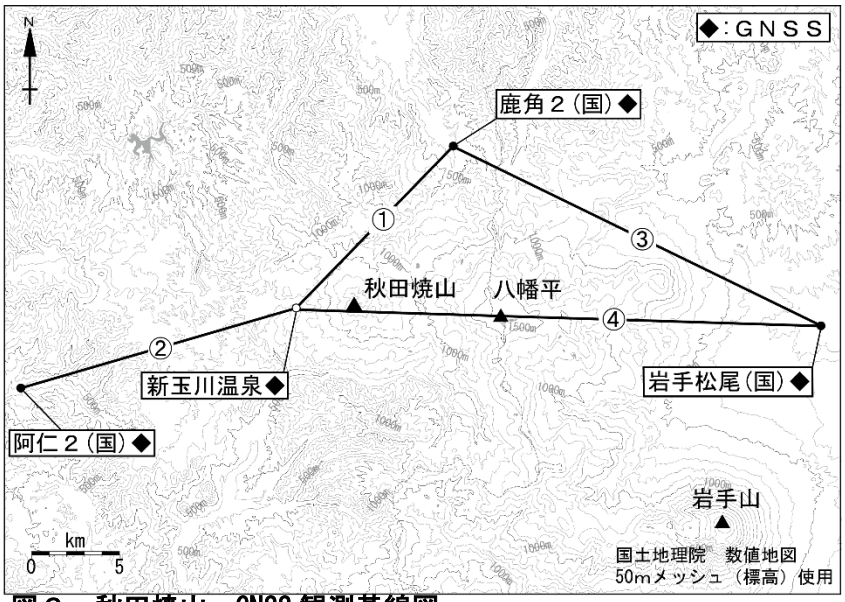


図６　秋田焼山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院